

# 講演会・歴史に学び今こそ歴史的総括を

## 「日本の侵略と治安維持法」



和歌山県版

No.392

2024.4.15

治安維持法犠牲者

国家賠償要求同盟

和歌山県本部

☎640-8343

和歌山市吉田102

国労会館2階

FAX : 073 (422) 7076

<https://wakayama.exblog.jp>

email:chian\_gisei  
sya@yahoo.co.jp



### 私たちの運動の基本

ふたたび戦争と暗黒政治を許すな

- 一、治安維持法体制の復活に反対する。
- 二、国は、戦前の治安維持法が人道に反する法律であったことを認めること。
- 三、国は、治安維持法の犠牲者に謝罪と賠償をおこなうこと。

3月16日 和歌山市で標記の演目により、県本部・和歌山市内3支部主催の講演会が開かれました。講師は「日本コリア協会大阪」理事長・飯田光徳さんです。

以下、講演の超超要約です。

日清戦争、日露戦争を前後して日本は朝鮮半島に武力侵攻し韓国の主権を奪い、日本の「保護国」として韓国を日本に「併合」(1910年)した。この間からその後にかけて、韓国では様々な抵抗運動・反日運動が起こった。それにたいして日本と同様の法令で弾圧したが、日本に治安維持法ができるや韓国においても勅令(天皇の命令)で同法が施行された。特筆すべきは韓国の独立運動を対象にしたこと。「韓国独立運動」は日本の国体

を変革しようとするものであるとした超拡大理屈による大弾圧であった。結果50名以上が死刑、射殺1030名、その他司法手続きを経ず多数が軍隊内で「処分」された。

このような中で、朝鮮人差別が今なお日本人の間にも国家間にも存在し問題は解決していない。これら数々の歴史を我々は「記憶」「記録」、歴史の真相を究明することが国民の平和の価値となり戦争をさせない力となる。治安維持法犠牲者国賠同盟はその一端を担っている。

参加された方の「感想・その他」  
「戦争のことをしっかりと学べていない日本国民のひとりとしてなぜこんな社会になってきているのかの原因の一部となっていること

がよくわかりました。より深く学んで子供や若い人に伝えられるように学びたいとおもいました。

歴史の良い勉強になりました。国賠同盟の署名活動の意義が戦前の歴史的総括になると思った。

初めて聞くことも多く目が開かれる思い。今戦前の歴史的総括をしなければ手遅れになるとの思いを強くした。

現在の裏金問題に関して記録せず消去して、なかったことにする政権の悪行の始まりは戦後すぐからだったことが分かった。

その他25名の方の感想文では「大変勉強になった」「こんな学習会を広めてほしい」などの趣旨が共通していました。

詳しいレジュメが県本部にあります。ご希望の方は県本部へお申し出ください。

## 現政局への 楠本文郎の想い

裏金事件は一層混迷を深めている。自民党の「処分」が発表されたが、党内騒然の様相。引き金は元幹事長二階俊博氏の「次の総選挙に出ない」という声明から「処分なし」となったことから。地域の住民からは「二階さんの食い逃げ」の声が大きい。「二階支持者」からもため息が漏れる。

この事件の本質は、政治資金パーティーという抜け穴をどんどん拡大して、政治資金収支報告書を偽造して「内緒の金」を作ったこと。さらにその裏金を「政治活動」ではなく「選挙活動」に使ったのではないか、だと

したら公選法違反は免れないこと。それが「幕引き」は許されないという世論を一層助長している。ことごとく岸田総理、自民党総裁の打つ手は世論に跳ね返されている。

この世論づくりに貢献してきたのが『しんぶん赤旗』という事も誇らしい。今一番の市民の願いは「自民党」に代わる政治。でも野党はバラバラという思い。文字通り日本の政治が大きく変わるうとしている。その先頭にたてることに大きなやりがいを感じている。「義を見てせざるは勇無きなり」と決意して始めた新衆院和歌山第2区への挑戦。自民党を代表する二階俊博氏との真つ向勝負はまだ続いている。

(日高支部 楠本文郎)

## アイテア下さい

治100年(2025年)は施行す。を行政役  
安維持にたります。かをしを三す。がア  
周年にたると催いまもこのデ  
先起のすといまもアイ  
想たいとていな  
いで考えよ  
どいのか、貸し  
い。い。

(県本部三役)

### 訃報

塩路 まり子さん 70歳

那賀支部所属、岩出市根来在住の塩路まり子さんが2024年3月15日死去されました

謹んで哀悼の意を表します

### こだま

3月13日、串本が一躍全国的に注目された。多くの人が訪れ、マスコミの注目を集めたのが、史上初と言われる民間企業によるロケットの打上げだ。成功すれば明るい話題の一つになると、期待を込めてテレビの中継を見ていたが、残念な結果になった。◆ところが、翌日『しんぶん赤旗』を見て驚いた。たんに「民間企業」のロケット打ち上げ「民間企業」な事でないことがわかった。◆「宇宙軍」を加速する岸田政権「軍事ブロック対決宇宙にも」「民間ロケット打ち上げ失敗」「代替スパイ衛星搭載」は、翌日14日の『しんぶん赤旗』の見出しだ。翌15日の同紙「潮流」では、「競争が奇烈な宇宙の場は、陸海空につづく第4の戦場とも呼ばれています。…今回のロケットには、政府の軍事スパイ衛星を代替するための小型衛星を搭載していました」とあったのだ。◆日本の政府は、情報収集衛星に年間800億円もの税金を投入とも報道されている。同紙は「非軍事」としてきた戦後日本の宇宙政策を、根こそぎひっくり返した経緯も紹介した。

《学習の頁》

## 日置川「原発」のころ

(連載 10 最終回)

祥賀谷 悠

原発をゆるさない闘いの渦中にあつた人たちの多くが故人や高齢となつたいま、あの頃をふり返り、節々の出来事を連載でたどってきました。東日本大震災と福島原発大事故のあと、「紀伊半島に原発を作らせなくてはほんまによかつた」という声をよく聞きます。実はきょうも(24年2月27日)、大阪から白浜に遊びに来ていた六〇歳代のご夫婦からその声を聞きました。紀伊半島では合計で九カ所の原発計画を断念させただんとすと言つと、「夫婦は「全国では五十一カ所で断念させたんやてねえ」と仰つた。国と電力資本が総力を挙げて推進する原発がいったいどれほどの悲劇、災厄を国民におしつけるか、福島原発事故はこの時代を生きるすべての人びとの脳裏に焼きつけました。

電力独占資本の暴走にストップかけた

日置川原発に反対する住民の気持ちの奥底にあつたのは、放射能の恐怖だけではありません。1958(昭和33)年のダム水害にたいする関西電力の傲慢な対応を、日置川流域の人びとは忘れていませんでした。原発に反対する運動は二転三転をくり返しながらも、「あいつらは信用できん」との思いも重なり関西電力の横暴をゆるさず勝利しました。地元の日置川町の人びとの闘いだけでなく、周辺市町村の原発に反対する多彩な運動も大きな比重を占めました。原発事故の放射能汚染は、地元だけでなく日本と世界に被害が広がりました。カネ儲けだけを追求し、住民の安全を一顧だにせず暴走する電力独占資本の本性が露になるもつとで、紀伊半島の各地で原発をストップさせた人びとの闘いは実に貴重です。

## 白浜町への原子力持ち込み拒否の条例

福島原発事故の「アンダーコントロール」などほど遠く、終息のめどさえ立っていないのに、原発問題が全国各地で再燃しています。関西電力はいまも

60町歩もの用地を日置川に所有し立地を断念していません。2019年末、白浜町は「安全・安心なまちづくり推進条例」を決め、その中で「原子力発電所の核燃料、使用済み燃料などを町内に持ち込むことや、それらを貯蔵、処分する施設の建設を認めない」と謳っています。この条例制定をうけて、関西電力は「将来の立地地点として地元情勢を鑑みながら地道に取り組んでいく」との談話を発表しました。地元自治体、議会や住民の意向などどこ吹く風で、資本の論理がむき出しの談話です。闘いは終わりません。

## 農林漁業の復活を再生可能エネルギーとともに

いま、原発と人類が共存できないことは世界的な世論です。とりわけ日本は地震大国です。東南海地震の震源域にある浜岡原発など、大地震が起きない場所は日本にはありません。再生可能エネルギーの育成で、漁業や農業、林業を復活させ、地域の経済を応援するときに到来しているのではないのでしょうか。

(終)

『犠牲者名簿』  
(第2版)から  
(56)

古田 司朗  
(ふるた しろう)

本籍:不詳

1931年11月6日早朝の  
全協オルグの検挙に関連し

て、同月9日和歌山市で検挙される。同月16日に釈放されたが、同月20日無期停学処分となる。和歌山高商2年生。  
1934年、和歌山高商卒業。

紀のくに歳時記散歩

14

紀のくに和歌山の歴史ある名所仏閣・碑などを気軽に散歩します。

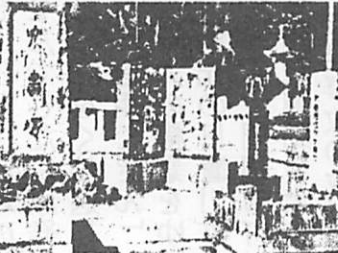
高野山 (5)

高野山の碑 (いしづみ)

笑われて浮き世をおくる顔にでき アチャコ  
高野山には、戦国武将の大きな墓所・墓碑群の他にも、様々な碑が数多くあります。そして、それらの碑は新しく建立されるもの、取り払われるものがあり、更新・発展させられています。奥の院駐車場前の参道から、

杉木立の参道に入る角に、「落書塚」があります。落書塚は、1968年に柳家金語楼が建て、徳川夢声氏、サトウハチロー氏、森繁久弥氏などが協力したそうです。その落書塚の側に冒頭の、以前にはなかった花菱アチャコの句碑が建てられていました。

高野山(2)で紹介した芭蕉句碑の近くには、治安維持法の犠牲になった、新興宗教家の「修養団」



落書塚とアチャコの句碑

発展する高野山

誠会総裁 出居清太郎の「父母恩重碑」という大きな碑もあります。(2016年5月『不屈』県版297号にY・T氏が詳しく紹介)

私は1987年に「高野山歴史の散歩」と題して『赤旗』紙に写真を添えた六回の連載記事を書いて「赤旗通信員賞」をいただきました。その経緯もあつたので、今回の連載もおさらいの気分で高野山の散策を始めたのですが、大きな間違いでした。

一の橋から杉木立の参道、以前紹介記事を書いたころは、うつそうとした杉林の中でしたが、今は至るところに明るく開けた所があり、新しい墓碑などが建てられています。

参道の石畳みも綺麗に整備されています。

消えた歌碑・建造物

「風なきに斜めの落葉いづかれば梢はなる小鳥一むれ 土井晚翠」 この土井晚翠の歌碑は、普賢院にありましたが今は無くなっていました

奥の院の駐車場から少し入った所にあつた、第二次大戦ビルマでの戦死者追悼の碑や、

「やははだのあつき血潮にふれも見でさびしからずや道を説く君 与謝野晶子」

この歌碑も今は見当たりません。高野山内は日々発展、更新されています。(高野山の項終わり)

(瀬戸 正男)